

## 平成20年度学校経営計画に対する最終評価報告

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策等）
<p>「勉学を第一義とする」をふまえ、高い学力を身につけ進路志望の実現を図る。</p> <p>・1時間の授業の大切さを意識し、意欲的に取り組む。</p>	<p>校内研究授業・研究協議会を充実させるとともに年間20日間の教員同士の授業参観期間を設けて、教員がお互いの授業を見せ合い、研鑽する機会を増やす。また、生徒による授業評価を授業改善に活用する。</p>	<p>年6回以上参観した教師の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>A</p> <p>授業参観期間で6回以上参観参観した教員は64人中56人で88%となった。</p>	<p>年間25日間の授業参観期間（後期を10日間から15日間に延長）を設定した。授業参観数は、1人あたりの平均が、自教科3.5、他教科3.2で合計6.7回となっている。また、9割近くの教員が6回以上参観しており、お互いの授業を見せ合う機会は増加した。次年度は、授業参観と生徒による授業評価を、授業改善に積極的に役立てるように、教科としての取組を重視したい。そのために、学習指導委員会と教科会との連携を密にするように改善していきたい。</p>
	<p>進路意識の向上と、高い進路志望を継続できるよう、難関大入試分析と、東大・京大の生徒向け入試問題説明会をおこなう。</p>	<p>難関10大学・国公立医学部及び東大・京大の合格者が</p> <p>A 120名以上 （東大・京大合格者が30人以上） B 100名以上 （東大・京大合格者が25人以上） C 80名以上 （東大・京大合格者が20人以上） D 80名未満 （東大・京大合格者が15人以上）</p>	<p>D</p> <p>東大 7名 京大 10名 医学部 9名 その他50名 合計 76名</p>	<p>外部模試等で学年全体の平均は高いが、最上位層の薄い集団であった。最上位層では医学部志望者が多く、9名が合格。東大京大は最後まで志望を貫いたので、東大7名合格は当初の予想より健闘したと思われる。</p> <p>センター試験の難化の影響を受けた者の中で安全志向が広まり、難関大受験者数が減少。結果的に80名を超えることはできなかった。</p> <p>（改善等）</p> <p>2年終りまでに国数英のバランスがとれるよう指導の見直し。 3年次の教科指導、模試、進路行事等の効率化を点検する。 センター試験後の特別授業について、日数も含めて再考が必要。</p>
	<p>ホーム担任および学年主任は、全国規模の校外模試を具体的な目標得点を設定した上で受験するよう、全生徒に対し、年間5回以上の個別面接指導を実施する。</p>	<p>学年団の指導が、自分の学力や学習姿勢の向上に役立ったと考える生徒の割合が、</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>B</p> <p>1年 89.0% 2年 87.4% 3年 91.8% 全体 89.4% (12月の生徒アンケート結果)</p>	<p>1年</p> <p>きめ細かい個別面談指導を、タイミングよくできた。特に9月の志望校検討会を踏まえて、2年文理選択の適切な指導に心がけた。</p> <p>2年</p> <p>前期に面談週間を設定し、集中的に面談ができた。国数英の朝学習で基礎基本の定着を図り、3年生での好スタートにつなげたい。</p> <p>3年</p> <p>各教科担当および進路課の分析に基づき、補習・添削指導を行った。指導を受ける生徒数からも、生徒の反応は十分に感じられた。</p>
<p>外部講師を招聘したり、大学等を訪問したりして、生徒の進路選択の支援をする。</p>	<p>英語によるコミュニケーション能力が身についたかの自己評価を行い、身についたと答える生徒が</p> <p>A 90%以上 B 70%以上90%未満 C 50%以上70%未満 D 50%未満</p>	<p>B</p> <p>2年 76.9%</p>	<p>学校設定科目「サイエンス・イングリッシュ」を受講している2年生だけを評価対象とした。</p> <p>2年生は週1時間、1グループ10人の少人数授業である学校設定科目「サイエンス・イングリッシュ」を受講している。また、総合の時間「AIプロジェクト」で取り組んだ研究の発表を県内の外国語指導助手24名を相手に英語のポスターセッションで行っている。そのため英語によるコミュニケーション能力が身についたと応える生徒の割合は高い。次年度も英語を話す機会を十分にとっていきたい。</p>	
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>多様な生徒が存在する中で、学校としてどこに照準をおくか明確にすることが大切である。生徒自らの考える力をさらに伸ばすため、各教員が、学校長の意向をふまえて、アイデアや意向を自律的に実現できる組織作りをしてほしい。世界で活躍する人材を育成するため、「大学」を語るだけでなく「学びの大切さ・おもしろさ」を語る姿勢が必要である。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善方針</p>	<p>学習指導・進路指導を学校全体としてより組織的に行うため、学習指導委員会を活用し、課・学年・教科の連携を深める。</p> <p>学力向上と学びの充実をより高めるため、教員の指導力向上にとどまらず生徒の意欲を喚起する授業改善に積極的に取り組む。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)および次年度の扱い(改善策等)
「品位を高め他の人格を重んずる」ことをふまえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。 ・あいさつの励行、体力の向上、成果ある部活動と充実した創立記念祭の取組。	挨拶をきちんと行い、円滑な人間関係が作れるようにする。	挨拶・会釈に関して自分自身がしっかりと挨拶をしていると答えた生徒が A 80%以上いる。 B 70%以上いる。 C 60%以上いる。 D 60%未満である。	A 1年 93% 2年 89% 3年 92% 全体 92% (12月実施生徒アンケート結果)	多くの生徒がしっかりと挨拶ができるようになりつつある。 今後は、より高い割合を目指して指導したい。挨拶に加えて、廊下での会釈などの指導も徹底したい。
	学校教育振興ビジョンなどを活用して、部活動の活性化、競技力の向上を図る。	総体総合順位が A 3位以上 B 6位以上 C 10位以上 D 11位以下	C 男子 10位 女子 16位 総合 8位	全体的に頑張りを見せているが、上位(優勝や準優勝)がなく、全国大会の出場を果たすことができていない。練習内容の工夫をさせ、また、施設用具などの整備・充実をはかり、外部指導者の招聘などにより、技術向上を図り、成果を上げたい。
	授業を通じて健康の保持増進、体力向上の大切さを理解させ、生徒自ら研鑽に努める態度を育成する。	持久走記録が春(4・5月)より秋(10・11月)に向上した生徒の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	C 男子全体 48.7% 1年男子 61.2% 2年男子 33.3% 女子全体 54.0% 1年女子 72.5% 2年女子 36.0% 全体 51.7%	入学生の体力低下は進行しているため、春は体力向上月間として、体力の向上を図る授業を展開している。その成果が特に一年生で現れた。二年生については、記録上位者のタイムはほとんど変わることがないため、一年生と比較して毎年向上率は低くなっているが、体力測定の結果は向上している。持久走については、2回目の測定時に球技種目を実施しているため、モチベーションが下がったと思われる。しかし、年間を通じて、体育授業への取り組み姿勢は非常に積極的で、体力向上の大切さを十分理解しているものと考えている。今後、特に二年生の体力向上、一年生のさらなる向上に向けた取り組みについて、保健体育科としてしっかりと考えていきたい。
	遠足・記念祭・スポーツ大会等の学校行事を通してクラスのまとまりを高め、生徒の自主性・主体性・協調性を育てる。	「創立記念祭を始めとする学校行事にホーム一丸となって取り組むことができ満足している」の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A 1年 86% 2年 91% 3年 97% 全体 91% (12月実施生徒アンケート結果)	(1年) 記念祭の催事で個性をぶつけ合い協力することで、互いの存在を尊重し合うようになり、クラスのよりよい人間関係が生まれた。 (2年) 記念祭の模擬店運営を通して、クラスの団結がより強固となり、見通しを持って物事に取り組むことの重要性を認識できた。 (3年) 遠足、校内陸上競技大会、記念祭とクラス行事は大いに盛り上がりを見せ、例年以上にクラスのまとまりが強いように見受けられる。
	問題を抱える生徒の早期発見に努め、学校生活がスムーズに行えるように、教師間の連携を密にして支援していく。	相談室連絡会を中心に担任・学年・保健室・相談室等が連携し、情報の共有化を図り、生徒個人の問題点を迅速に把握し、よりよい支援の態勢を築くことが A よくできた。 B ほぼできた。 C あまりできなかった。 D まったくできなかった。	A 6月・10月・12月・2月に相談室連絡会を実施。	ホーム担任・保護者との連携のもとに、不登校気味の生徒の早期発見に努め、適切な支援を行うことができた。 次年度に向けて、生徒のプライバシーを尊重しつつ、保護者と連絡を密にし、場合によっては外部の教育機関(例えば「やすらぎ金沢教室」等)との連携を深めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	目標はおおむね達成されているので、ステージをあげて、「泉丘生としての誇り・気概」を高める指導が望まれる。人間力を高め、社会に出てから活躍できる力の素地を学校教育の中で身につけさせる指導を工夫してほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善方針	「社会人と語る会」を通して本校出身者の業績を知るなど、泉丘生としての誇りを高める具体的な取り組みを検討する。社会貢献的活動等を通じて、人間力の育成をはかる。正しい勤労観を身につけるため、インターンシップ等の実施などキャリア教育を充実させる。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)および次年度の扱い(改善策等)
<p>3 「正義を愛し社会から信頼される」ことをふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。</p> <p>・保護者懇談会、授業公開の機会拡大。地域社会と連携した生徒活動の推進。</p>	<p>PTA 総会・いしかわ教育ウィーク・各種講演会などの機会を通して、積極的に学校を公開し、参加する保護者・地域住民の増加をめざす。</p>	<p>保護者によるアンケートにおいて「学校は、開かれた学校づくりに積極的に取り組んでいる」と答えた割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>A</p> <p>92%</p>	<p>学校行事の様子をHPに23回速やかに掲載し、保護者及び地域住民の方々へ、教育活動情報を提供し、保護者からのアクセスが約7%増加したことは評価される。教育ウィーク期間中の参加者も約50名増加した。しかし、PTA総会や各学年のガイダンスの保護者の参加数が減少している。</p> <p>次年度は、PTA総会や学年のガイダンスの参加者が増加する工夫が必要である。</p>
	<p>「いしかわ教育ウィーク」を含んだ2週間程度と土曜スクール(12日間)を授業公開とし、保護者に周知する。</p>	<p>授業公開を実施し、授業参観した保護者が年間</p> <p>A 1000人以上 B 800人以上 C 600人以上 D 600人未満</p>	<p>B</p> <p>年間で、881名。</p>	<p>授業参観した保護者が881名(PTA総会時の土曜スクール555名、体験入学125名、いしかわ教育ウィーク201名)で、昨年度より126名増加した。しかし、保護者が、授業参観に実際に来るのは、PTA総会時の土曜スクール、体験入学、いしかわ教育ウィークに限られている。授業公開の機会をいかに効果的に拡大するかが、次年度の課題である。</p>
	<p>ホームページの更新を定期的に行い、各種行事・部活動・SSHの様子や教育課程・進路などの情報を校外へ発信し、よりわかりやすく公開する。</p>	<p>保護者による外部評価において、「学校のホームページにより、学校の様子がわかる」という項目のよくあてはまることやあてはまるを合わせた割合が、</p> <p>A 85%以上である。 B 80%以上である。 C 75%以上である。 D 75%未満である。</p>	<p>A</p> <p>86%</p>	<p>各課・室が公開する情報の掲載や更新は適切にできた。また、実施された行事等の紹介が24件あったが、そのうち、行事終了後1日以内に15件が、5日以内にはそのほとんどが掲載できた。外部評価の数値は昨年度より4ポイントアップした。本校の教育活動の様子や各種情報をタイムリーに発信できたことがアップにつながったと考えられる。ただ、「よくあてはまる」の割合は35%で必ずしも高いとはいえず、改善の余地は多分にある。</p> <p>次年度に向けて、学校の様子をよりわかりやすく公開するために、保護者アンケートの意見にもあった「学年だより」等の学校からのたよりをホームページに掲載する方向で検討したい。</p>
	<p>ISO活動「節電・紙の節約やリサイクル・ゴミの分別」を通して、環境保全意識の向上を図る。</p>	<p>保健環境課アンケートでの生徒の「環境意識」・「地域での活動」に対する自己評価で、よくできた、まあまあできたの占める割合が</p> <p>A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満</p>	<p>B</p> <p>72%</p>	<p>「ISOだより」は定期的に発行できた。しかし裏紙リサイクルはもっとPRを徹底し、改善していく余地があった。また紙リサイクルボックスの使用については、もっと分かりやすく、もっと指導しやすいものになるよう、更に表示や扱い形式の工夫を検討したい。</p>
	<p>生徒の保護者や学校評議員に生徒への推薦図書を紹介していただき、推薦図書案内「青春の一冊」に掲載することで、生徒の読書指導への協力を得る。</p>	<p>推薦図書案内「青春の一冊」に掲載された保護者数が、</p> <p>A 80人以上 B 60~79人 C 40~59人 D 40人未満</p>	<p>C</p> <p>53人</p>	<p>一昨年38人、昨年58人であったが、今年度は「青春の一冊」は3年目となり、卒業生の保護者は掲載しないことにしたため、予想以上に減少した。来年度は、1年生の保護者全員を対象に推薦図書を募りたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>目標はおおむね達成されている。評価のための取り組みにならないように、簡素化省力化の姿勢をもつことも必要である。学校全体の活力・熱意が高まることが何よりも大切である。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策</p>	<p>様々な課題に対応するため、保護者・地域に対する適切な情報提供のあり方を検討するとともに、新たな連携のあり方を模索する。評価方法をより実施しやすい形態に改善する。</p>			